

この報告書は、災害教訓の継承に関する専門調査会の下に設けた小委員会において検討され、平成18年3月22日に開催された同調査会で承認されたものである。執筆は、

(主査) 渡辺 尚志	一橋大学大学院社会学研究科教授
鎌田 浩毅	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
荒牧 重雄	山梨県環境科学研究所所長
大浦 瑞代	お茶の水女子大学大学院生
関 俊明	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
安井 真也	日本大学文理学部地球システム科学科専任講師
北原 糸子	神奈川大学非常勤講師

の各委員及び

三上 岳彦	首都大学東京都市環境学部都市環境学科教授
小菅 尉多	国土防災技術株式会社技術本部環境保全部
松島 榮治	孺恋郷土資料館館長

が行い、担当は以下のとおりである。

はじめに

- 第1節 本報告書の構成 (渡辺尚志)
- 第2節 天明3年噴火と災害の概要 (安井真也)
- 第3節 天明3年前後の時代状況 (渡辺尚志)

第1章 天明3年浅間山噴火の経過と災害

- 第1節 浅間山の形成史と天明3年噴火 (安井真也)
- 第2節 古記録と噴出物に記録された天明3年噴火 (安井真也)
- 第3節 天明3年噴火の経過と現象の火山学的考察 (安井真也)
- 第4節 天明3年噴火の物的被害 (安井真也)
- 第5節 まとめ (安井真也)

コラム1 天明3年前後の気候 (三上岳彦)

第2章 よみがえった「天明3年」

- 第1節 天明噴火の被害と発掘調査 (関俊明)
- 第2節 よみがえった鎌原村 (松島榮治)
- 第3節 吾妻川沿岸の遺跡 (関俊明)
- 第4節 利根川合流以降の遺跡 (関俊明)
- 第5節 軽石の被害を受けた地域 (関俊明)
- 第6節 天明泥流被災範囲をたどる (関俊明)
- 第7節 史料による天明泥流流下とその確認 (関俊明)
- 第8節 まとめ (関俊明)

コラム2 日本のポンペイ (浅間とヴェスヴィオ) (関俊明)

コラム3 2004年の噴火で確認した天明3年のこと (関俊明)

コラム4 天明泥流の流れ（小菅尉多）

コラム5 天明泥流の土砂と水（小菅尉多）

第3章 復興への努力と災害の記憶

第1節 噴火の記録と復興への努力（渡辺尚志）

第2節 噴火被害と復興－幕府普請役の仕事と熊本細川家御手伝普請－（北原糸子）

第3節 災害の記録と記憶（大浦瑞代）

コラム6 浅間山と災害（荒牧重雄）

おわりに～天明浅間山噴火の教訓～（全委員、事務局）

第1節 火山噴火に伴う災害

第2節 復興対策

第3節 被災の記憶の継承

資料編

参考文献一覧

渡辺委員は、報告書全体の確認を行った。

なお、事務局の担当は以下のとおりである。

（事務局）荒木 潤一郎	内閣府（防災担当）企画官
石井 晴雄	内閣府（防災担当）企画官（平成17年9月まで）
久津摩 敏生	内閣府（防災担当）企画官（平成17年3月まで）
安竹 竜一	内閣府（防災担当）行政実務研修員（平成18年3月まで）
清水 透	内閣府（防災担当）行政実務研修員

平成18年3月

内閣府政策統括官（防災担当）

本報告書のとりまとめは、財団法人日本システム開発研究所に委託し、実施した。